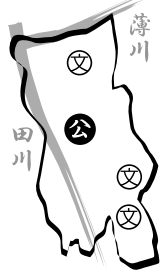


館報

庄内



庄内地区	
平成29年7月1日現在人口	
世帯数	6,848戸
男	7,485人
女	7,465人
合計	14,950人
発行 庄内地区公民館 (ゆめひろば庄内)	
電話 24-1811	
FAX 24-1812	

昔と違う環境だから 信州コミュニティスクールが必要になっています

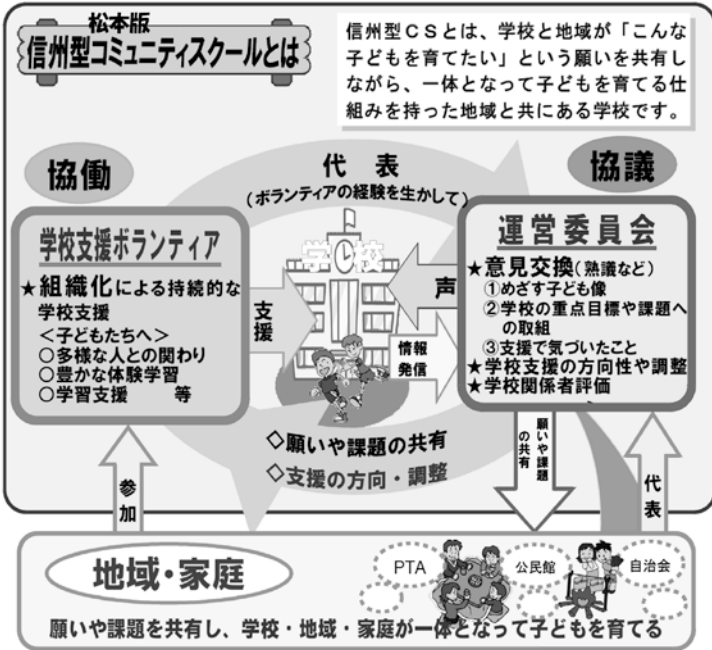


今松本市では、各小中学校においてコミュニティスクール(略してCS)事業の推進のための運営委員会が作られ、

その活動が始まっています。従来は、学校ボランティアとか学校サポート事業として学校に対し地域の支援活動を行って

ることになりました。庄内地区においても、開成中学校・並柳小学校・筑摩小学校にそれぞれ運営委員会が開設され、その活動が始まっております。

運営委員会のメンバーは、町会役員、民生委員、子ども会育成会、保育園長、PTA役員、学校支援者代表、地域づくりセンター長、学校代表者等で構成され、コーディネーターは地区公民館長が担当しております。



信州型CSとは、学校と地域が「こんな子どもを育てたい」という願いを共有しながら、一体となって子どもを育てる仕組みを持った地域と共にある学校です。

が、今年より松本市の特性と経験を活かした松本版・信州型コミュニティスクールとして一本化、統一して活動する現在実施されている支援活

動、また依頼されている要望を列挙してみます。

- ・米づくり体験支援
 - ・松本一本ネギ栽培
 - ・花壇づくり支援
 - ・読み聞かせ活動
 - ・交通安全、見回り活動
 - ・あいさつ運動支援
 - ・学習支援(家庭科等)
 - ・その他沢山の項目あり
- 運営委員会では、地域の皆様のお手伝いを募集しております。学校または公民館にお問い合わせください。

ご期待ください！第10回 ドリーム庄内秋のつどい

毎年秋に開催されるドリーム庄内「秋のつどい」は、皆様のご協力により今年で第10回の節目を迎えます。

今回の企画は、前年度「好評をいただいた「防災運動会」の他、大人も子供も楽しめる「前夜祭」を開催いたします。現在、具体的な内容を検討しておりますので近々お知らせいたします。

- ◆10周年記念前夜祭 平成29年10月21日(土) 14時頃(予定)
- ◆防災運動会 平成29年10月22日(日) 8時30分頃(予定)

地域びと



私の公民館との出会いは11年前、庄内地区公民館が開館した年。その頃の私は、まだ現役バリバリで毎日が「勝った負けた」の繰り返しの日々。そんな時、知り合いだった松本市職員が開館したの庄内地区公民館に主事として配属となり、なんの連絡を取ることもなく顔を出したことが始まりでした。その久しぶりの再会が、私に大きな変化をもたらしました。

きつと多くの方が、近所付き合いや地域活動への参加は面倒と感じていると思えます。私もその一人でしたが、彼は逆に、その楽しさや魅力を、いろんな角度から時間を惜しむかのように私に話してくれました。そして仕事では決して出会うことのない人との繋がりがまで作ってくれました。今では、多くの仲間と一緒に、様々な活動を楽しみ日々々に恵まれています。通りすがりに気さくに声をかけられた時、やっと「地域びと」になれたのかな...と嬉しく思います。(えむ)

きらりわが街 逢初町会

選挙投票率が毎回高く、大勢の住民が政治に関心がある。

◆歴史・沿革
逢初町会は大正11年に町会が組織され今年で95年となる。この地域は明治、大正、昭和30年代まで蚕種消毒普及会を中心にした蚕糸業が盛んで、木材関連業者も多く、準工業地域として発展してきた。

現在も建設・建具・鉄工・自動車・染色・ガラス工房・資源回収等のものづくりの工場・企業がある一方、畑・工場跡地が宅地造成されマンション等の住宅地となっている。

逢初町は人口571名、世帯267戸と小規模ではあるが、

きらりわが街 中林町会

◆歴史・沿革
六年前に中林町会副公民館長を仰せつかった折、当時の公民館長が多忙だったため、私が公民館事業の企画をお引き受けすることとなりました。

さっそく室内での講演や物づくりといった活動を考えました。様々な事情で限界を感じました。そこで屋外で何かできないかと考え、健康寿命アップのためのウォーキングを企画しました。丁度、松本市でも市民歩こう運動が始まった頃でした。単に街中を歩くのではなく、

◆地名の由来

「逢初」の地名は千鹿頭山から流れ出す(現状は通っていない)逢初川に由来する説、明治末から藍染めが行われていた事に由来する説がある。

◆「三世代交流講座」に参加して

新緑の5月21日、庄内地区公民館と逢初町公民館の合同企画「三世代交流講座」が開かれました。上高地自然観察ウォーキングと奈川渡ダム水力発電所の見学会を、三世代の家族で学ぶというものです。まず、上高地にて参加者は三

地域の文化財、古道や遺構等を巡り、説明を聞きながら歩くというもので、後に身近な場所は歩き尽したため、バスや電車を乗り継いで広い範囲に足を運ぶようになりました。

この活動は今年の春で十二回を迎えました。平日の午前中に行うため参加者は限られました。白いと毎回参加してくださる方がおり、いつも次回を期待してくださるので、継続できているのだと思います。六年間の活動は次のとおり。
第一回 女鳥羽川周辺の水巡り。地下水の違い確認。

班に分かれ各自の体力に合ったコースを歩きました。私は新緑の上高地を満喫したいため、明神池までのロングトレイルを選択。透き通るような青空、明神岳の岩壁は鏡のように光を反射して白く輝き、その中に広葉樹の緑が点在する美しいコントラストでした。明神池ではニリンソウを見つけました。高さ15cmの小さな白い花びらの植物で、地味だけど一生懸命咲いています。しかし、私が好きなエゾムラサキは見つからず。ザンネン。発電所では視察中に通水が始まり、発電機が稼働しました。普段は関係者以外立ち会う事のない

第二回 まつもと市民芸術館で屋上から奈落まで見学し舞台上から客席を見て感動。貴重な体験でした。帰りに石井味噌の味噌蔵の見学も。

第三回 薄川を里山辺へ。岩波酒造で酒蔵見学し、美味しい甘酒をご馳走になる。

第四回 松本大学学内見学と、根本教授の講義と歩き方とストレッチの実技授業体験で、大学生になった気分。

第五回 戸田廟からすすきの宮まで、江戸から古代までの歴史の道歩き、上條宮司より古えのお話を拝聴する。

第六回 筑摩神社から、弘法

い貴重な体験です。ご協力いただいた東電の皆様には感謝申し上げます。



今回のような、地区公民館と町内公民館が互いに連携し、地域の発展に繋がる活動が、庄内地区にどんどん広がれば、と思えます。(M・H)

庄内ほたると水辺の会の活動

去る6月24日、信州大学特任教授の藤山静雄先生が、ほたるや生き物が大好きな庄内地区の子供達や大人の皆さまを対象に、「ほたるの学習会」を開催されました。

昔は近所の田んぼだけでなく、自宅の中にもふらつと飛んで来たというほたる。藤山先生は、そんな穏やかな田園風景はもうすっかり見かけなくなつたと語られました。

土地開発の中でどんどん失われていく自然を守るうとした会の活動、ほたるの生態、生命の多様性等、参加者は多くのことを学ばれました。

皆さまもほたるの生態を切り口に、身近な自然に住む生き物達に目を向けて見ませんか？

(横内ハルミ)